

♥♥ひととき コーナー♥♥

子どもの本に関心のない方は読みすごされたと思いますが、今月はじめ、児童文学者の石井桃子さんが、亡くなりました。3月に101歳を迎えられたばかりでした。子どもに本の世界の楽しさを、と私設の図書館を作り、図書館の必要性を説きました。先月はじめ、そのかつら文庫創立50周年のお祝いがあったばかりでした。外国の楽しい子どもの物語をたくさんたくさん翻訳紹介してくださいました。5、60年代の外国児童文学の翻訳の多くは、石井桃子、瀬田貞二、渡辺茂男さんでもってました。今、40代の人々が一番恩恵をうけたと思います。学生時代、子どもたちの帰ったかつら文庫にお邪魔して、子どもによい本とは、なぜこの絵本がよいのかとか、原文と付けあわせて翻訳のよしあしなど、先生を囲んでみんなで語り合った(私はすみっこで小さくなっていましたが)ことが懐かしく思い出されます。瀬田さんはもうずいぶん前に、そして、私の恩師の渡辺先生も一昨年秋他界されました。現代は、たくさん本と翻訳者に恵まれています、いつまでも読み継がれる物語を与えてくれた草創期の方々に感謝の気持ちを捧げたいです。

さて、冒頭の『ノンちゃん雲に乗る』(石井桃子作 1947刊)ですが、本も読んだはずなのに、残念ながら映画の印象が強いのです。ノンちゃん役の鰐淵晴子の初々しさと西洋的美しさ、私達とちがう台詞回しの可愛さや、おかあさんの原節子への憧れ、徳川無声の雲のおじいさんなど(60代以上の方しかご存じないでしょうね?)、多分、原作の雰囲気とだいぶ違うのではないかと思うのですが、それでもあれがファンタジーの世界を楽しんだ最初だったような気がします。

そういえば、今日の朝刊に『赤毛のアンシリーズ』(村岡花子訳 初版 1952)が文庫で再刊された記事を花子さんのお孫さんが書いていました。私たち、かつての女の子は、アンで日が昇りアンで日が暮れた時代がありましたね。村岡訳で日本語の豊かさ学んだ気がします。時には、古典とともに若い日を振り返ってみましょうか。

♥♥文庫あれこれ♥♥

◆5月の展示はどうぞ楽しみにしてください。会員の重田さんお仲間の手作り絵本はもとより、全国規模の調べ学習コンテストの優秀作品はお子さんにも大人にも調べる楽しさが伝染しますよ! 日頃来ない中学生やご主人も是非お誘いください。◆開館期間中、お天気なら庭でゆっくりお茶を飲みながらの読書やおしゃべりはいかがでしょう。(西村)

“ “これからの催し物のお知らせ” ”

5月アートフェスティバル参加

文庫開館 10日~18日 10時~15時

⇒展示会 (10~17日)

手作り絵本\*調べ学習コンクール優秀作品

⇒大きい人のおはなし会

(10日土曜 17:00~19:00)

⇒小さい人のおはなし会(11日日曜 10:30~)

★両日ともゲストを招いてのおはなし会

7月海の日のおはなし会

7月20日(日)夕刻から 伊豆高原駅

文庫開館記念こどものためのおはなし会

7月21日(月)朝 10:30~ 沙羅の樹文庫

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆5月は上記です。10、17日は17時まで。

◆6月は14日(土)、15日(日)です。

◆文庫の時間: 土曜日は午後2時~5時、

日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、子どものための小さなおはなし会があります。

午前10:30~11:00

♥文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》  
みんなで勉強会

★5月は9日(金)午後2時からです。

★関心のある方はご連絡ください。

# 沙羅の樹文庫便り

No.20

(2008年4月号)



ノンちゃん雲に乗る (石井桃子作 中川宗弥絵)

先日、山之口猥さんの詩を読んでいて、私は、ノンちゃんを思い出したのです。お宮さんの紅葉の木に登って池に落ちたと思ったら空に落ちたノンちゃん。空はふわふわの雲で埋まっていました。……

天 山之口猥 作  
草にねころんでいると 眼下には天が深い  
風  
雲  
太陽  
有名なもの達の澄んでいる世界  
天は青く深いのだ  
みおろしていると  
体躯が落ちこちさうになってこわいのだ  
僕は草木の根のやうに  
土の中へもぐり込みたくなくてしまふのだ。  
地から天を見下ろす、という感覚。さすが詩人ですね!

## 紹介・子どもの本 大人の本

### ★会員から会員へおすすめの1冊★

(通常、文庫の棚の本を紹介していただいておりますが、今日の本はまだありません。)

「光の指で触れよ」 (池澤夏樹著 中央公論新社 08.1刊)

表紙の写真が眼を引きました。これは、後ろの解説によると、13歳で盲目になった写真家の写真なのだそうです。少女が草の上で、踊っているような、跳ねているような、楽しい写真なのです。眼が見えないのに、どうしてこんな一瞬を捉えられるのか、不思議です。

夫の不倫をきっかけに、5歳の娘を連れて妻はオランダに渡って友だちの家に居候を始める。高校生の長男は新潟の全寮制の学校にいつている。仲の良かった家族がばらばらになってしまったところから、話がはじまるのだ。

興味深いのは、その妻と娘が住みついた「コミュニティ」という所。ヨーロッパにはこうした所が多いと書いてあるのだが、これは実在するのだろうか。人の出入りは頻繁で数日の滞在で出て行く人もいれば、数ヶ月、また何年にもわたって、そこで生活する人もいる。「コミュニティ」は、家族よりもゆるくて、ただの隣近所よりもずっと親密で、会社よりも温かい。そういう暮らしかたがヨーロッパにたくさんあるというのです。「コミュニティ」のいいところは、競争が無い、お金の役割が小さい、みんな精神的な目標を持っている、お互いを評価しないけど、人の話はよく聞く、他の人の生き方に関心がある、本当に理想の生活なのです。

最近私たちは、独りになった時どのように暮らせるか、と友だちとよく話しますが、ほどよい親密さを保って生活できたら、寂しくないし、うっとおしくなくていいなあと思います。好きな事で、例えば、野菜をつくる、食事をつくる、買い物をする、掃除をする、などなどで生活を支えればいられるのです。話したいときに話し、独

りになりたいときは一人で。そんなうまい話はないと思っていましたがこの「コミュニティ」を真似できれば、可能かも。このお話の中には、環境問題(風力発電を仕事にする)、教育問題(例えば学校とはなにか。そこは子どもを加工する所だなんて、過激な意見が)、農業問題(パーマカルチャーとか、有機農法とか)など興味を引かれる話題がいっぱいです。

そして、子どもたちもおとなも、知らず知らずにひきつけられていった所が、同じだった。というわけで、未来は明るいのかなあと思わせて終わっています。

500ページを超える長編ですが、一気に読みました。

中西 景子 (08.4.9)

子育て中のおかあさん、おとうさんへ  
お忙しくて、子どもの本を選んで読み聞かせせてあげるのが精一杯と思いますが、この文庫には、子どもの本のリストや参考資料もたくさんあります。また、私が会員になっている会(東京子ども図書館、親地連、図書館の学校etc)の機関誌もあります。読書や、読書環境の現状を知るには最適です。ぜひご利用くださいね。(西村)

## 新刊・新入庫の本

### 子どもの本

#### 絵本

『ぼくがラーメンたべてるとき』(長谷川義史作 教育画劇 2007)『よしおくんがぎゅうにゅうをこぼしてしまったおはなし』(及川賢治・竹内繭子作絵 岩崎書店 2007)『ねぼすけ はとどけい』(ルイス・スロボトキン 偕成社 2007)『ソルビム2』(セーラー出版 2007)『シモンのおとしもの』(あすなる書房 2007)『にいさん』(いせひでこ作 偕成社 2008)『ともだちひきとりや』(偕成社 2004)

#### 小さな人の絵本

『なーらんだ』『くつついた』『わたしの』(三浦太郎作 2007)

#### 読み物

『ちかちゃんのはじめてだらけ』(薫くみ子作 日本標準 2007)『魔使いの呪い』(東京創元社 2007 リクエスト本)『ふたりでおるすばん』(いとうひろし作 徳間書店 2007)『ワビシーネ農場のふしぎなガチョウ』(あすなる書房 2007)『緑の模様画』(高樓方子作 福音館書店 2007)『ジャック。デロシュの日記』(ジャン。モラ作 岩崎書店 2007)

★2007のお薦めの本第1弾です。

### 大人の本

『セ・シ・ボン』(平安寿子著 筑摩書房 2008)『桃の花が咲いていた』(山之口獏著 童話屋 2007)『キレる大人はなぜ増えた』(香山リカ著 朝日新書 2008)『須賀敦子全集 3～8』(河出書房新社 2007)  
★大人の本は5月にたくさん入ります!

寄贈をいただきました、ありがとうございます。

桑原京子さん、横山さん、市岡さん、

そしていつもいつもよい本をおいてくださる皆様に。

沙羅の樹文庫